

第28回 新春懇談会を開催



挨拶する中村会長

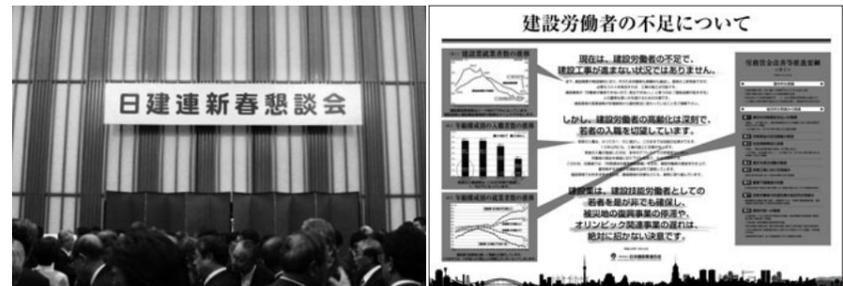
日本建設業連合会は一月二十三日、東京・大手町の経団連会館で、マスコミ、有識者の方々と交流をはかる二〇一四年「新春懇談会」を開催した。

同懇談会は、日建連役員および会員会社社長・広報担当者等が、マスコミや関係の有識者と親しく懇談し建設業に対する理解を深めてもらうため、実施しているもので、冒頭、中村会長が「資材や労務の高騰などによる工事費上昇に対して、発注者から懸念の声が聞かれるようになったが、まずは新しい技術の開発や施工方法の工夫、現場合理化などあらゆる手だてを講じるとともに、工事費については発注者と誠実な協議を行いながら理解いただき、着実に建設業の使命を果たしていきたい」と力強く

挨拶をした。

その後、宮下広報委員長が「建設業の役割と重要性を広く理解してもらうための広報活動を積極的に展開したい」と乾杯の音頭を取り、懇談に移った。今年も、例年以上に参加者が多く、熱心な意見交換があちこちで行われていて、盛り上がりのあるものになった。

新春懇談会の会場内には、「建設労働者の不足について」と題するパネルを掲示し、労働者不足に対する建設業の見解や取り組みを紹介した。このパネルでは、若年者の確保に向けて賃金引上げや雇用条件改善の運動を必死で展開していることを紹介するとともに、被災地の復興事業、五輪関連事業をなんとしても円滑にやり遂げるという日建連の決意を表明した。



左/熱心な意見交換会が行われた会場風景

右/会場内に展示した労働不足に対する建設業の見解や、取り組みを紹介したパネル